

公社経営方針

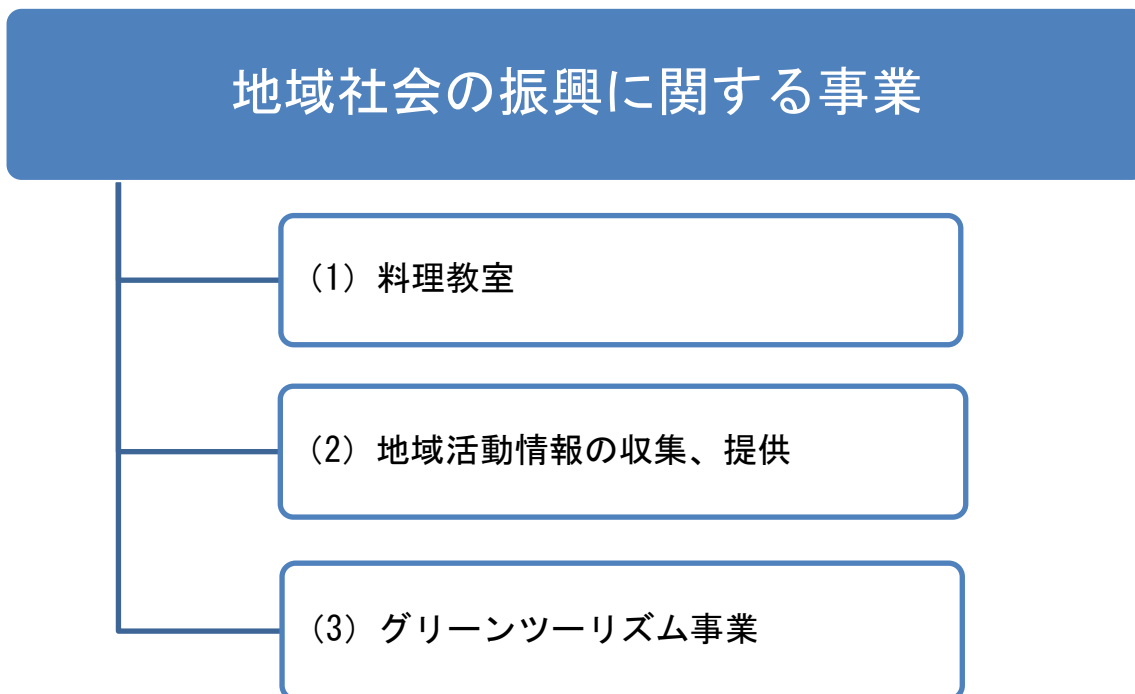
財団法人松崎町振興公社では、平成 20 年 12 月の公益法人制度改革関連三法施行に伴い、一般財団法人への移行認可をめざして申請作業を進め、平成 25 年 3 月 18 日に静岡県知事から認可を受けた。これにより同年 4 月 1 日付けで「一般財団法人松崎町振興公社」として設立登記を行った。

当財団は、「松崎町の地域資源を活かして、町の発展と文化活動の振興を図るとともに、町が設置する公の施設等の効率的な管理運営を行い、もって住民の福祉の増進に寄与する」ことを目的として定めている。新法人は、定款に掲げたこの理念に基づき、文化の振興や地域の活性化を図る事業を実施する。

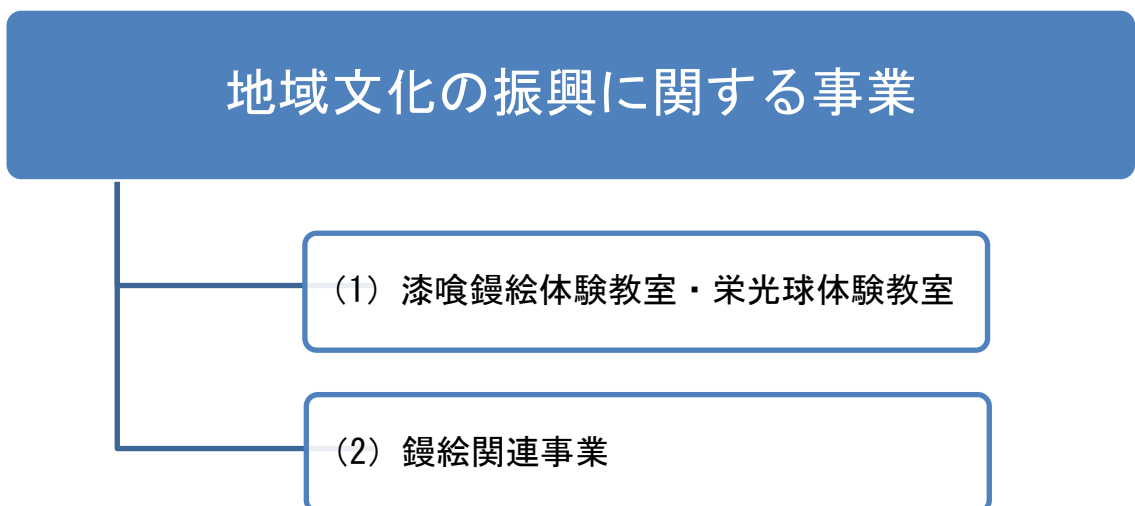
平成 25 年度の事業計画にあたっては、長引く経済の低迷や少子高齢化など依然として続く厳しい環境を乗り越えていかなければならない。そのためには、自然や文化といった地域資源と公社がこれまで培ってきたノウハウを最大限活用し、地域コミュニティとの協働によるネットワークを構築し事業展開していくことが不可欠である。事業の実施や予算執行には引き続き効率的な運営を図っていく。

平成 25 年度事業体系図

定款第 4 条第 1 項事業



定款第 4 条第 2 項事業



定款第4条第3項事業

松崎町から受託する公の施設等の
管理運営に関する事業

(1) 美術館管理事業

(2) 重文岩科学学校管理事業

(3) 明治商家中瀬邸管理事業

(4) 環境センター管理事業

(5) 民芸館管理事業

(6) 道の駅花の三聖苑管理事業

(7) 伊豆まつざき荘管理事業

定款第4条第4項事業

その他この法人の目的を達成する
ために必要な事業

(1) その他事業

事業区分別事業

地域社会の振興に関する事業

定款第4条第1項事業

(1) 料理教室		予算額	
		258 千円	
目的	料理教室は、地域住民を対象にホテルの料理長や管理栄養士、パティシエを講師に招いてホテルの本格的なメニューや人気のケーキ等バラエティに富んだ内容で開催する。カロリー計算や健康、栄養バランスに気を配った和食や、健康に留意しながら且つ家庭でできる本格的な料理、民宿や旅館で提供できる地産地消をテーマにした料理等を学び食生活の意識の高揚を図っていく。		
25年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
料理教室 講師 朝倉穂積 佐野ちえみ 土屋智揮	通年	和食3回 洋食3回 お菓子2回	環境改善センター 調理実習室

(2) 地域活動情報の収集、提供		予算額	
		30 千円	
目的	近隣の観光施設や宿泊、交通機関等の入込状況を調査し、静岡県や松崎町の行政機関、金融機関等へ観光情報や流動実態調査の資料として情報提供する。このデータは、観光実態の把握と今後の対策に活用される。 また、町内イベント等の観光情報は「温泉郷だより」として毎月旅行会社やマスコミ関係者に発送していく。この情報はホームページでも提供していく。		
25年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
地域活動情報の収集、提供	通年	12回	環境改善センター

(3) グリーンツーリズム事業		予算額	
		5,900 千円	
目 的	松崎町の豊かな農山漁村の地域資源を活用したプログラムにより、都会の人々と地元住民との交流を図っていく。子ども農山漁村交流プロジェクトの誘致活動を行うとともに、指導者養成講座、安全管理講習等も開催していく。		
25 年度の予定			
内 容	実施時期	実施回数	実施場所
グリーンツーリズム事業 協議会 安全管理講習会 指導者養成講習会 体験メニュー開発 温泉郷だよりの発行 情報発信の強化(HP) ジオパーク事業推進 子どもプロ誘致活動 田舎暮らし応援ツアー	通年		松崎町内

地域文化の振興に関する事業 定款第 4 条第 2 項事業

(1) 漆喰鏝絵教室・栄光球教室		予算額	
		902 千円	
目 的	「漆喰鏝絵教室」「栄光球教室」は、郷土の左官の名工伊豆の長八を生んだ松崎ならではの事業である。伊豆の長八美術館職員(学芸員)や左官職人が講師を務め開催する。わが国古来の左官材料である壁土や漆喰は、近年ホルムアルデヒド対策として見直され、また、自然素材がエコロジーの観点からも注目されている。鏝絵や栄光球の作品づくりを通じ環境問題にも触れていく。		
25 年度の予定			
内 容	実施時期	実施回数	実施場所
漆喰鏝絵教室 栄光球教室	通年	漆喰鏝絵教室 75 日 栄光球教室 60 日	伊豆の長八美術館 小中学校等

(2) 鍍絵関連事業		予算額	
		500 千円	
目 的	鍍絵関連事業では、長八の伝統を踏まえた作品、新しい時代にふさわしい発想の作品を募集する「全国漆喰鍍絵コンクール作品展」を開催し、鍍絵文化の普及を図っていく。伊豆の長八の影響を受けた左官職人が全国各地に鍍絵を残しており、それらの地域と交流を深めることにより鍍絵の普及啓発も行っていく。		
25 年度の予定			
内 容	実施時期	実施回数	実施場所
全国漆喰鍍絵コンクール入賞作品展	9 月末から 10 月末	1 回	伊豆の長八美術館

**松崎町から受託する公の施設等の管理運営に関する事業
定款第 4 条第 3 項事業**

(1) 美術館管理事業		予算額	
		32,000 千円	
目 的	伊豆の長八美術館の管理運営を通じ、漆喰芸術の振興や普及啓発を図るとともに、長八作品の収集や保存、展示により「漆喰鍍絵の殿堂」として魅力的な美術館づくりを推進する。		
25 年度の予定			
内 容	実施時期	実施回数	実施場所
伊豆の長八美術館の管理運営	通年	入館者 46,000 人	伊豆の長八美術館

(2) 重文岩科学校管理事業		予算額	
		23,000 千円	
目 的	国の重要文化財に指定されている旧岩科学校の管理運営を通じ、文化の向上及び文化財保護思想の普及を図っていく。教育資料の収集や保存に努めるとともに、明治期の授業風景や民俗資料の展示を通じ町の文化振興に寄与していく。		
25 年度の予定			
内 容	実施時期	実施回数	実施場所
重文岩科学校の管理運営	通年	入館者 30,000 人	重文岩科学校

(3) 明治商家中瀬邸管理事業		予算額	
		9,500 千円	
目的	明治商家中瀬邸の管理運営を通じ、歴史的資料の収集、保管並びに展示を行っていく。併せて松崎町のインフォメーションセンターとして観光情報を提供していく。 ギャラリーは町民に無料で貸し出し、文化的活動の発表の場として活用していく。		
25 年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
明治商家中瀬邸の管理運営	通年	入館者 25,000 人	明治商家中瀬邸

(4) 環境センター管理事業		予算額	
		14,720 千円	
目的	環境センターの管理運営を通じ、住民の生活改善合理化、健康増進、地域連帯感の醸成に寄与する。住民のコミュニティ、文化活動の拠点施設として、また、東海地震に対する防災拠点としての役割も果たしていく。		
25 年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
環境センターの管理運営 ロビーの運営	通年		環境センター

(5) 民芸館管理事業		予算額	
		20,100 千円	
目的	民芸館の管理運営を通じ地域振興に貢献していく。1 階では、町の特産品であるさくら葉を使った商品の普及や石部の棚田、オリーブの PR に努める。2 階は体験工房及びギャラリーとして運営していく。松崎町文化協会へ貸し出し、町民の絵画、写真、彫刻等の作品を公開していく。		
25 年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
民芸館の管理運営 1 階特産品販売 2 階体験工房・ギャラリー	1 階営業 通年		民芸館

(6) 道の駅花の三聖苑管理事業		予算額	
		48,700 千円	
目的	花の三聖苑の管理運営を通じ、地域の振興と道の駅利用者の利便性向上に努めていく。施設の運営には、地域の高齢者にボランティアとして積極的に携わっていただき、高齢者の福祉の増進にもつなげていく。中川地域の活性化の拠点としての役割を果たしていく。		
25 年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
道の駅花の三聖苑の管理運営 天城山房 かじかの湯 三聖会堂 大沢学舎 作業棟	通年 天城山房 食事営業 328 日 夜間営業 167 日 かじかの湯 営業 364 日	入浴者数 37,500 人 食事利用者 17,200 人 喫茶利用者 14,400 人 売店利用者 12,000 人	道の駅花の三聖苑

(7) 伊豆まつざき荘管理事業		予算額	
		254,400 千円	
目的	伊豆まつざき荘の管理運営を通じ、地域の活性化と雇用の確保を図っていく。これまで培ってきた知識や経験、地域のネットワークを活用し、まつざき荘ならではの創意工夫を重ねて施設運営を行っていく。町の優れた地域資源を活かして都市部等との人・文化・情報等による地域間交流事業を推進するとともに、豊富な温泉と新鮮な魚介類を安価に提供し、町観光協会と連携して宿泊客に観光情報の提供や各種体験プログラムの斡旋を実施するなど公共の宿ならではの事業を展開していく。さらに、法事等の会食や敬老祝賀会、各年代の同窓会の場として利用促進していく。 このほか、近年心配される東海地震に備え定期的な避難訓練を実施し、有事の際には避難ビルとして職員が率先して避難誘導にあたるような危機管理体制もとっていく。		
25 年度の予定			
内容	実施時期	実施回数	実施場所
伊豆まつざき荘の管理運営	通年	宿泊利用者 23,500 人 (利用率 47%) 休憩利用者 9,760 人	伊豆まつざき荘

その他この法人の目的を達成するために必要な事業
定款第4条第4項事業